**【　補助勘定科目データのData Loaderによるインポート手順　】**

**Ａ．GL勘定の設定なし　・・・　Page.　１～２**

**Ｂ．GL勘定の設定あり　・・・　Page.　３～４**

**A．GL勘定の設定なし**

A-1. Data Loaderインポート用のCSVファイルを作成する。

A-1-1. インポート用テンプレートファイル（SubLadger\_NotGLAcc\_Insert\_Template.csv）を別名コピーする。

A-1-2. 別名コピーしたインポート用ファイルの 「RSTK\_\_SYACC\_DIV\_\_C」 に、Divisionの内部コードを設定する。

A-1-2-1. Divisionマスタを一覧表示する。

A-1-2-2. 「カスタムオブジェクトID（＝Record ID）」 項目を表示する。

Divisionマスタの 「カスタムオブジェクトID」 がDivisionの内部コードである。

（例）TR010の場合：内部コードは、”a8R6g000000YdLjEAK”

A-1-2-3. インポート用ファイルの 「RSTK\_\_SYACC\_DIV\_\_C」の値として、上記で確認した 「カスタムオブジェクトID」 の値をセットして保存する。

A-2. Data Loaderを起動し、作成したインポートファイルをInsertする。

A-2-1. Data Loaderを起動し、下記のStepに従って操作を行なう。

Step 1: Log In

1. 環境は、”Sandbox” または”Production” を選択して [Log in] ボタンを押す。
2. ユーザ名とパスワードを入力する。
3. ”Allow Access？” が表示された場合は、 [Allow] ボタンを押す。
4. ログインに成功したら、　[Next] ボタンを押す。

Step 2: Select data objects

1. Salesforce Objectは、”Sub-Ledger Account(rstk\_syacc\_c)” を選択する。
2. InsertするCSVファイルを [Browse…] ボタンを押し指定して [Next] ボタンを押す。
3. ポップアップ画面にInsert対象レコード件数が表示される。確認し [OK] ボタンを押す。

Step 3: Mapping

1. [Create or Edit a Map] ボタンを押す。
2. [Auto-Match Fields to Columns] ボタンを押し、項目マッピングを自動で行なう。
3. 項目マッピングが行われ、画面の下段にマッピング結果が表示される。
4. [Save Mapping] ボタンを押し、マッピング定義データを保存しておく。
5. [OK] ボタンを押す。
6. [Next] ボタンを押す。

※ 既にマッピング定義ファイル（拡張子はsdl）がある場合は、以下の手順でマッピングを行なう。

1. [Choose an Existing Map] ボタンを押す。
2. 保存してあるマッピング定義ファイルを指定する。
3. 項目マッピングが行われ、画面の下段にマッピング結果が表示される。

Step 4: Finish

1. 実行ログなどの出力先の指定画面が表示される。出力場所を変えたい場合は変更する。
2. [Finish] ボタンを押す。
3. 処理の実行確認のポップアップ画面が表示されるので、 [Yes] ボタンを押す。
4. 処理件数と処理時間、成功件数とエラー件数のポップアップ画面が表示される。
5. 成功結果とエラー結果を画面で確認できる。
6. エラー結果を表示して、エラー内容を確認する。

**B．GL勘定の設定あり**

B-1. Data Loaderインポート用のCSVファイルを作成する。

B-1-1. インポート用テンプレートファイル（SubLadger\_Insert\_Template.csv）を別名コピーする。

B-1-2. 別名コピーしたインポート用ファイルの 「RSTK\_\_SYACC\_DIV\_\_C」 に、Divisionの内部コードを設定する。

B-1-2-1. Divisionマスタを一覧表示する。

B-1-2-2. 「カスタムオブジェクトID（＝Record ID）」 項目を表示する。

Divisionマスタの 「カスタムオブジェクトID」 がDivisionの内部コードである。

（例）TR010の場合：内部コードは、”a8R6g000000YdLjEAK”

B-1-2-3. インポート用ファイルの 「RSTK\_\_SYACC\_DIV\_\_C」 の値として、上記で確認した 「カスタムオブジェクトID」 の値をセットして保存する。

　 B-1-3. GL勘定の内部コードを 「RSTK\_\_SYACC\_GLXREFACCT\_\_C」 に設定する。

　　 B-1-3-1. 事前にGL勘定マスタ（GL Accounts）をData LoaderでExportし、GL勘定コードとその内部コードを把握しおく。GL勘定マスタの 「カスタムオブジェクトID」 がGL勘定の内部コードである。（例）TR010の1100（売掛金勘定）の場合：

内部コードは、” aAz6g000000br3TCAQ”

　　 B-1-3-2. インポート用ファイルの 「RSTK\_\_SYACC\_GLXREFACCT\_\_C」 の値として、該当するGL勘定コードの 「カスタムオブジェクトID」 の値をセットして保存する。

B-2. Data Loaderを起動し、作成したインポートファイルをInsertする。

B-2-1. Data Loaderを起動し、下記のStepに従って操作を行なう。

Step 1: Log In

1. 環境は、”Sandbox” または”Production” を選択して [Log in] ボタンを押す。
2. ユーザ名とパスワードを入力する。
3. ”Allow Access？” が表示された場合は、 [Allow] ボタンを押す。
4. ログインに成功したら、 [Next] ボタンを押す。

Step 2: Select data objects

1. Salesforce Objectは、”Sub-Ledger Account(rstk\_syacc\_c)” を選択する。
2. InsertするCSVファイルを [Browse…] ボタンを押し指定して [Next] ボタンを押す。
3. ポップアップ画面にInsert対象レコード件数が表示される。確認し [OK] ボタンを押す。

Step 3: Mapping

1. [Create or Edit a Map] ボタンを押す。
2. [Auto-Match Fields to Columns] ボタンを押し、項目マッピングを自動で行なう。
3. 項目マッピングが行われ、画面の下段にマッピング結果が表示される。
4. [Save Mapping] ボタンを押し、マッピング定義データを保存しておく。
5. [OK] ボタンを押す。
6. [Next] ボタンを押す。

※ 既にマッピング定義ファイル（拡張子はsdl）がある場合は、以下の手順でマッピングを行なう。

1. [Choose an Existing Map] ボタンを押す。
2. 保存してあるマッピング定義ファイルを指定する。
3. 項目マッピングが行われ、画面の下段にマッピング結果が表示される。

Step 4: Finish

1. 実行ログなどの出力先の指定画面が表示される。出力場所を変えたい場合は変更する。
2. [Finish] ボタンを押す。
3. 処理の実行確認のポップアップ画面が表示されるので、 [Yes] ボタンを押す。
4. 処理件数と処理時間、成功件数とエラー件数のポップアップ画面が表示される。
5. 成功結果とエラー結果を画面で確認できる。
6. エラー結果を表示して、エラー内容を確認する。